

近代

解説

ぼんしょうきょうしゅつ 鳥取県下の梵鐘供出

翼賛因伯 昭和十一年二月廿日

梵鐘悉く應召

縣下寺院数は四百二十で、その梵鐘保有数は百二十個である。今さかのぼって昨年来の梵鐘供出状況を檢するに、昨年本運動が開始され、や真先に申込をなし、供出陣の供出陣の一番乗りを博したのはいふのは(中略)今や國は焦眉の急に迫られあらゆる角度を超越して緊要やむなき要請となつて居るのであるから、区々たる感情・利害に拘泥し、又は理論・遊戯を繰り広げてゐる時でない。日本皇国民たるの自覚を以て速に國家の要望に應へられたい。

其他は存置を主張するものゝ如くである。固より貴重なる美術品や由緒深い品々は特別な扱ひとされ、遊戯を繰り広げてゐる時であるが、今や國は焦眉の急に迫られ、あらゆる角度を超越して緊要やむなき要請となつてゐるのであるから、区々たる感情・利害に拘泥し、又は理論・遊戯を繰り広げてゐる時でない。日本皇国民たるの自覚を以て速に國家の要望に應へられたい。

鳥取市 完了となつてゐる寺院の供出に對する政府の方針定まり、縣も運動の申出である。天徳

| | |
|-----|----|
| 鳥米岩 | 31 |
| 美伯 | 14 |
| 東伯 | 18 |
| 西伯 | 51 |
| 計 | 26 |

八頭(五六)氣
日野(二七)
完了に付本

常軌

本年五月いよく寺院の供出に對する政府の方針定まり、縣も運動の申出である。天徳

梵鐘の供出(昭和17年 国府町)
(鳥取県政100年記念『目でみるとっとり百年』より引用)

『翼賛因伯』57号 昭和17年
12月20日(個人蔵)★

戦況悪化の下で、軍需利用のために社寺の梵鐘・金属回収が行われていたことはよく知られている。

この資料は、1942(昭和17)年時点での県下寺院の梵鐘供出の状況を伝える、大政翼賛会鳥取県支部が発行した『翼賛因伯』の記事である。

この記事では、まず国家の方策にいち早く応じ、梵鐘供出に協力的だった寺院・個人を褒めている。近代において村のすみずみまで整備されていく国家による「褒めるシステム」の機能を戦争協力体制構築に発揮させ、この「善行」を模範的行為と位置づけようとする支部組織の意図を読みとることができる。

他方で、鳥取市内にはこれに泥まらず梵鐘の供出に抵抗する寺院もあった。これら組織運動に同調しないもの対しては、日本皇国民として「常軌を逸す」少数者の異端行為と断じ、地域や村社会で「圧力」を醸成しこれを押し潰していこうとする様子がみてとれる。

(担当：前田孝行)

参考資料

- ・大政翼賛会鳥取県支部『翼賛因伯』(1941年)
- ・岸本覚『鳥取県氏ブックレット11 褒められた人びと—表彰・栄典からみた鳥取—』(2013年)
- ・鳥取県政100年記念『目でみるとっとり百年』(1981年)

★の写真は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。